

収穫前にも！

ICボルドー 66D

200倍希釈で利用できるようになりました
醸造用ブドウの収穫前など、薬斑が残ることが
心配される時期にご利用ください！

➤登録内容

2022年9月に登録を取得しました

適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
べと病	25～ <u>200</u> 倍	200～700ℓ/10a	—	—	散布

➤散布適期

袋掛け・カサ掛け後から収穫後まで

収穫前

汚れを抑えながら防除しましょう



傘かけ又は袋かけ直後



収穫直後



➤試験結果

対照剤と同等の効果を示しました

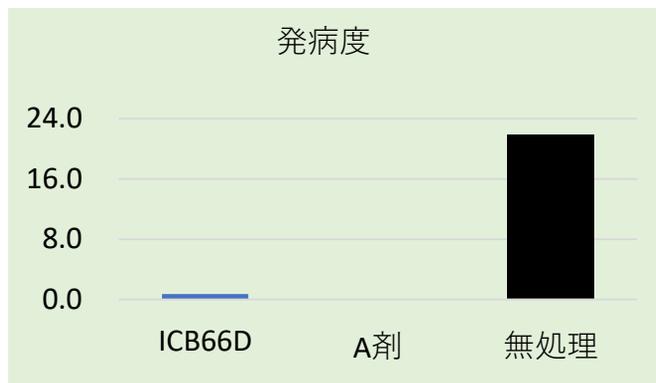
地域・実施年	評価 (A~D評価のうち)	防除価	対照剤の 防除価	薬害
山梨県・2020 ※1	A	96.8	99.5	±
長野県・2020	B	78.4	83.3	+
山梨県・2021	A	91.3	96.5	±
長野県・2021	A	93.3	97.7	+

薬害の発生しやすい時期(開花期から果実の小豆大期)に散布しているので、各試験で薬害が確認されています。この時期の散布はお控えください

※1 2020年 山梨県果樹試験場

薬剤	希釈倍数	調査葉数	発病葉率	発病度	防除価
ICボルドー66D	200	300	2.7%	0.7	96.8
A剤	1,000	300	0.3%	0.1	99.5
無処理	—	300	63.7%	21.9	—

発生状況 多発生
 品種 ネオマスカット(露地)
 処理日 5/18(展葉9~10枚)
 5/29(展葉11~12枚)
 6/8(開花期)
 計3回散布
 調査日 6/18(最終散布10日後)



➤薬斑による果実汚染

200倍希釈で使用することで、果実汚染が軽減されます



200倍 散布時



100倍 散布時

